



令和4年度 果樹情報 第19号

(令和5年3月14日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (3月上旬、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が5.7℃で平年より2.1℃高く、2半旬が9.6℃で平年より6.1℃高く経過しました。この期間の降水量は0mmでした。日照時間は、73.0時間で平年比112%と多くなりました。

2 発芽状況 (3月13日現在、果樹研究所)

発芽は、もも、なし、りんごの各品目とも、まだ確認されていません。

3 発育予測 (3月13日現在、果樹研究所)

仙台管区气象台が3月9日に発表した1か月予報(3月11日～4月10日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

●東北地方1か月予報(仙台管区气象台 令和5年3月9日発表)

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。週別の気温は、1週目(3/11～3/17)は、高い確率80%です。2週目(3/18～3/24)は、高い確率80%です。

気象庁の2週間気温予報では今後の気温が高いからかなり高いと予報されており、これを反映した2週間予測では、もも「あかつき」の発芽は3月18日頃で平年より6日早く、なし「幸水」の発芽は3月24日頃で平年より8日早く、りんご「ふじ」の発芽は3月17日頃で平年より10日早いと予測され、平年に比べかなり早まることが予想されます。

表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度(DVR)モデルによる発育予測]

	発芽日		今後の気温経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	3月27日	3月24日	3月20日	3月18日	3月22日	3月18日
幸水	4月1日	4月1日	3月29日	3月25日	4月2日	3月24日
ふじ	3月30日	3月27日	3月20日	3月18日	3月22日	3月17日

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります。

4 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

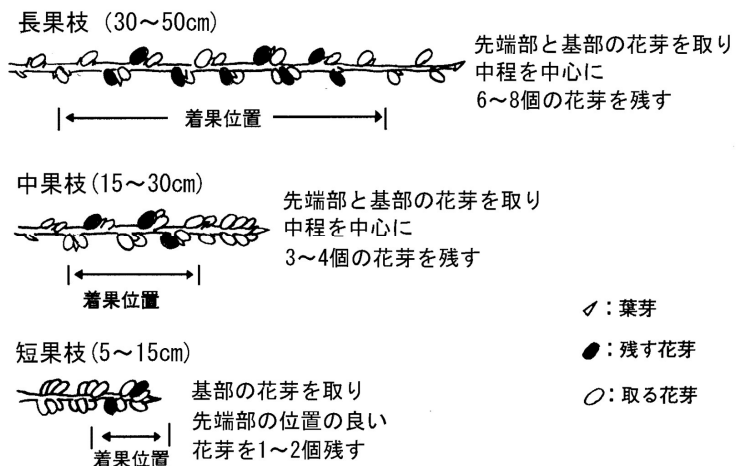


図1 ももの摘らい方法

5 病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は、時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(2) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(3) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、カイガラムシ類、モモアカアブラムシの発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(4) なし

黒星病及びハダニ類に対して、発芽 10 日前までに石灰硫黄合剤 10 倍を散布しましょう。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園地では散布が必要です。

また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑が見られる枝では芽基部が感染している可能性があるため、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、発芽 10 日前までの石灰硫黄合剤に替えて機械油乳剤 95 又はハーベストオイルを使用し防除を行います、樹勢が低下した樹には使用しないよう注意しましょう。

(5) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>